



[対談] 我々の人生の師と信條

せんじゆん——大正12年京都府生まれ、昭和21年同志社大学法学部卒業後、米ハワイ大学で修士、24年大徳寺管長後藤藤藏老師について得度、39年千利休15代家元を継承。平成14年16代家元を長男に譲り藤雲斎千玄室となる。現在日本・国連親善大使、日本国連総合協会会長、茶道裏千家宗元名誉会長、京都市生涯学習総合センター所長など多くの役職を持つ。平成9年文化勲章受章、哲学博士。文字博士。「お茶をどうぞ 私の履歴書」(日本経済新聞社)「生かされている喜び」(茶の心)(ともに淡交社)など著書多数。

茶道裏千家前家元

千玄室

国際日本文化研究センター前所長

山折哲雄

やまおりつとつお——昭和6年米サンフランシスコ出身。東北大学大学院博士課程中退。出版社勤務を経て東北大学助教、国立歴史民俗博物館教授、国際日本文化研究センター所長などを歴任。心の問題や宗教に関する講演、執筆活動を展開している。希望王國において文化大使。著書に「愛敬の精神史」「デタノボーになりたい——私の宮乳賢治」(ともに小学館)「蓮如と信長」(PHP研究所)「近代日本人の宗教意識」(観覧をよむ)ともに岩波書店)など多数。

千 山折先生、しばらくでございます。きょうは私も裏千家、今日庵に足をお運びいただきましてありがとうございます。

山折 都会の喧嘩から離れた由緒ある茶室で、千玄室大宗匠からいろいろなお話を聞けるのを楽しみに参りました。お招きいただきまして、大変嬉しく思っています。

千 山折先生にはいつも大所高所からご指導いただいているわけですが、シンポジウムでお目にかかったり、いろいろな会場で一緒に話をさせていただくようになって、かれこれ二十年になりましたか。

山折 そうですね。

千 先生は宗教学者としてだけではない、日本の文化に非常に深い造詣をお持ちいらっしゃるわけですから、私も直接に、また間接にお話をお伺いするたびに教えられることが非常に多々ございます。

私 は八十六歳になりましたけれども、やはり死んでなお学ぶべしという気持ちがあります。山折先生より先輩ではありますが、割合年齢も近いものですから話も合

世界に広がる和の心

茶の道を究める一方、「一碗からピースフルネスを」を志として半世紀以上、海外に和の心を伝えてきた裏千家前家元の千玄室氏。宗教学の権威で、日本人に心の問題を問い続ける国際日本文化研究センター前所長の山折哲雄氏。日本の文化界を代表するお二人は、これまでどのような人生を歩み、何を信條としてきたのか。京都の裏千家今日庵で語り合っていたのだ。